

平成13年度 第3回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

1 日 時 平成13年8月30日(木)13:30～14:45

2 場 所 岡山市保健福祉会館5階 視聴覚室

3 出席者 別紙委員名簿を参照(5名欠席)

4 傍聴者 3人

5 会議の概要

「岡山市くらしやすい福祉のまちづくり条例(仮称)」の素案について、事務局から説明の後、素案についての意見等をいただいた。

6 主要な意見

全体を通してよくできていると思う。賛成である。

市、市民、事業者が役割分担をして福祉のまちづくりに取り組んでいくという考え方や、市民が自らの知恵と情熱をもってまちづくりの主人公になっていくという位置づけなどは非常に賛成できる。

高齢者、障害者は「すべての市民」の中に含まれているが、高齢者、障害者への配慮というのは、大切なことだと思う。できれば、高齢者、障害者の方の意見を聴く場を設けるような規定を入れてほしい。

条例は、シンプルで実効性のあるものであってほしい。県の施設整備基準の適用やバリアフリーを推進するための設計支援委員の設置、情報公開して広く市民の意見を聴きながらまちづくりを推進していくというのは評価できる。

「市民の基本的な役割」のところにある「自立」の表現については、自立が難しい障害者等に配慮する意味で、「共に支え合って自立していく。」というような表現の方がよいのではないか。

市民、家庭、地域社会というときの一番の基盤は「一人ひとり」なので、「すべての市民」というよりは、「市民一人ひとり」と強調してほしい。

条例となると、難しくて読みにくいものが多いが、これはすらすらと最後まで読めた。こういう条例ができれば、読む人も増えていいと思う。